



第1回新見市地域共生社会推進本部会議
2025年8月26日

新見市の目指す健康福祉のまちづくり -地域共生社会推進本部の課題と当面の取り組み-

新見公立大学 学長
公文 裕巳

「地域共生社会の実現」に向けて

⇒青字の枠囲みが新見市における取組（ベースは国資料）

新見市地域共生社会推進本部
の目的

＝ **地域共生社会の実現**（第4条第1項）

地域福祉の推進は、地域住民が相互に人格と個性を尊重し合いながら、参加し、共生する地域社会の実現を目指して行われなければならない。

地域福祉の推進

（第4条第2項）

**地域生活課題の把握、連携
による解決に向けた取り組み**

（第4条第3項）

包括的な支援体制の整備

（第106条の3）

市町村に地域の特性を踏まえた、包括的な支援体制（※）の整備に努めることを義務づけ

（※）地域で支え合う関係性の構築や支援関係機関同士が有機的な連携を行うことができる環境整備等

全世代・全対象型地域包括ケア

新見市地域共生社会推進本部
の取組（方向性）

重層的支援体制整備事業

（第106条の4）

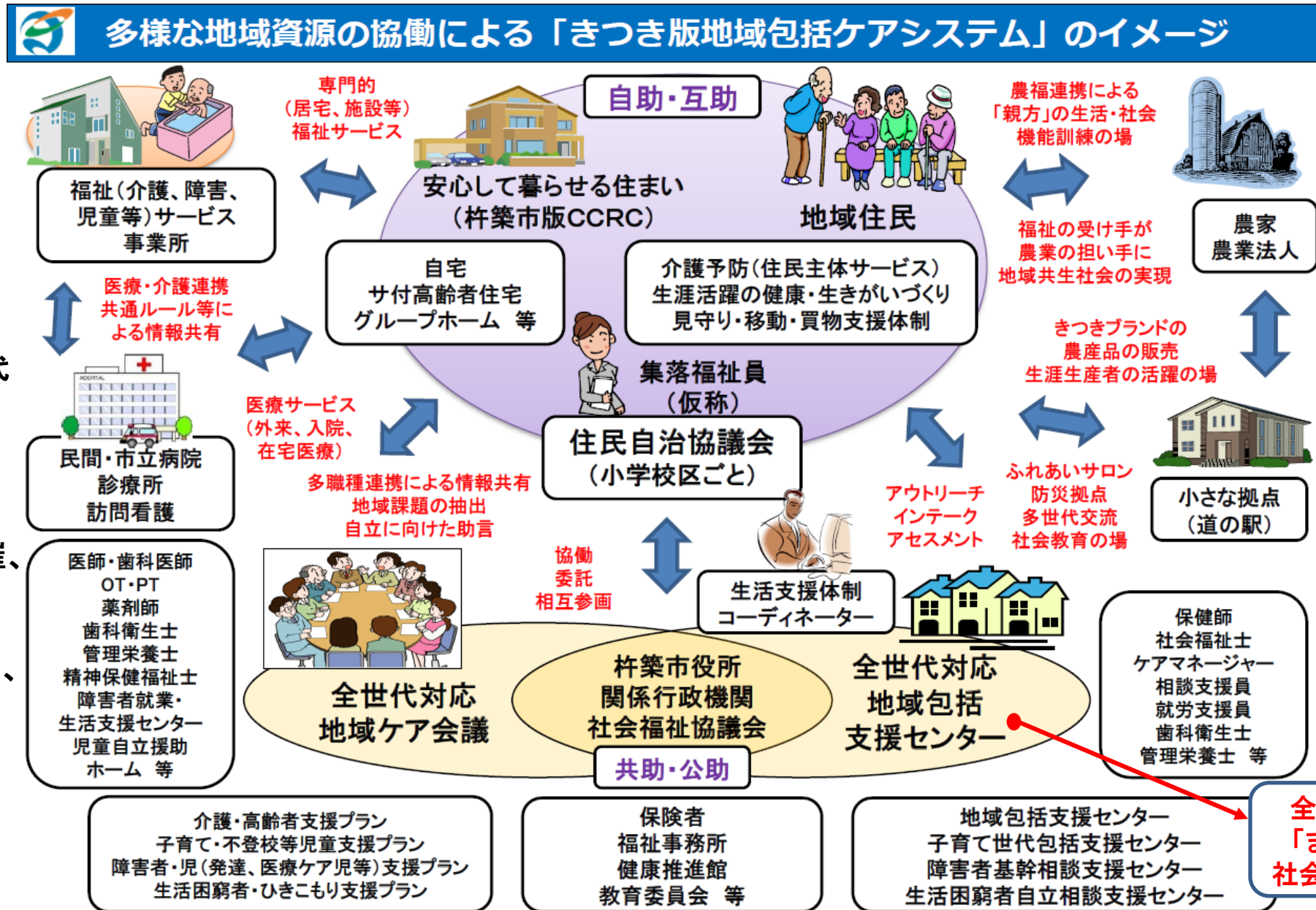
包括的な支援体制の整備の手法の一つとして、市町村において相談支援、参加支援、地域づくりを一体的に実施する事業

（任意事業：全国346箇所）



先進事例

2018年より、全世代対応の支援体制の構築、年々充実。
●地域ケア会議：
多数の専門家が参加して週1回開催、
⇒政策提言に活用
⇒成果：
要介護認定率低下、
保険料抑制



人口 25,522人
(2025年6月末)

●大分県北東部、国東半島の南部に位置し、緑豊かな山間部と海岸部を併せ持つ自然豊かな地域。城下町の雰囲気を持つ街並みが特色。

全世代支援センター
「まるっと」2020年に
社会福祉協議会に設置

断らない相談支援
伴走支援

健康福祉のまちづくりのための推進体制について

新見市地域共生社会推進本部

本部を設置し、公立大学を核とする産学官民連携による共生社会『新見モデル』の構築を進める。

①保健・医療・福祉・教育に関する課題、②人と資源が循環するまちづくりに関する課題への対応を協議し、**大学生の力も活かして**まちづくりを推進する。



学生総数 799人

- ・岡山県 備中県民局
- ・岡山県 備北保健所
- ・新見医師会
- ・新見市社会福祉協議会
- ・保健医療関係者
- ・福祉事業者

子育て支援
のまち

女性が
輝くまち

インクルーシブ
保育・教育

福祉関連
新産業創出

障害者に
優しいまち

新見公立大学

(学生・教職員・学外専門家)

岡山県健康の森学園支援学校
& 社会福祉法人健康の森学園

広大な健康の森ゾーン

約250haの健康の森ゾーンの約45haの敷地で活動

全世代型地域包括ケア
+重層的支援体制整備事業

赤字は令和7年度
からの新設の課室

新見市（本部事務局） 本部長：副市長

福祉政策推進室

健康福祉部

総務部

市民生活部

産業部

建設部

教育連携推進課

教育部

新見市地域共生社会推進本部における検討の進め方（案）

- ① 県や新見公立大学のほか、医療・福祉・介護に関わる関係機関・団体、事業者の方々と地域共生社会の実現に向けて、目的意識を共有する。

- ② 新見市における現状を把握する。

⇒データ収集を行うとともに、既存事業や相談支援実績等の洗い出しを行う。

国の施策に関する情報を共有する。「地域共生社会の在り方検討会議」の検討状況等
県の施策との連携を検討する。「保育・介護等一体的まちづくり推進モデル事業」など

- ③ 新見市における地域課題を抽出する。

新見市において優先的に取り組むべき地域課題を本部で選定する。

①課題：杵築市を参考に、地域ケア会議の内容、多職種連携、交流拠点の整備、全世代対応の支援体制などを強化。

②特色ある地域資源の活用：新見公立大学と健康の森学園との有機的連携、ICT（Z連携）による連携強化、地域運営組織の機能的(全世代地域包括ケア推進拠点として)活用。

③推進本部(福祉政策推進室)の役割：(i) 国の施策等に対応して新たな政策を実施する（保険者機能の強化や全世代対応の支援など）。(ii) 多様な地域課題について、今回設置する実務者会議からの政策提言を受けて実施する。

- ④ 地域課題の解決に向け、本部員が連携して事業を実施する。

当面の地域福祉政策の進め方への提言

(i) 国の施策等に対応して新たな福祉政策を実施

- 課題1. 地域をデザインする保険者機能の強化
 - 課題2. 総合事業の活用
 - 課題3. 全世代対応の支援・重層的支援体制の整備
- ⇒ 実施前に課題ごとに推進本部で協議する

全世代型地域包括ケア
+重層的支援体制整備事業

(ii) 多様な地域課題に対応して、実務者会議からの政策提言を受けて実施

- 課題1. 「健やかな子どもの発達」を見守るまちづくり
- 課題2. 「心の豊かさの向上」を実現するまちづくり
- 課題3. 「高齢者の健康寿命の延伸」を実現するまちづくり

⇒ 新見市の特色ある地域資源を活用して、健康福祉のまちづくりを推進する

課題先進地域の現場で人と地域を創る新見公立大学



目標

病気や障害をもっている、社会に適応してその人らしく生活している状態が「健康」であり、それを支える人と仕組みを科学すること！

「健康」を支える人の育成を科学する
新・健康科学部(2019～)

地域ぐるみで支えあう保育



心と体の健康を支える看護

共生社会の基盤を創る福祉

「健康」を支える仕組みを科学する
大学院 健康科学研究科(2023～)

中山間地域の全世代型地域包括ケアの追究

地域共生社会

生きがいと役割



心のバリアフリー

看護学専攻

博士前期課程(修士)
博士後期課程*

地域福祉学専攻*

修士課程*

中山間地域の持続可能性の指標

*2023年4月新設

健やかな子どもの発達、心の豊かさの向上、高齢者の健康寿命の延伸

新見市の目指す「健康福祉のまちづくり」への提言



● 「健やかな子どもの発達」を見守るまちづくり

- ・幼児期から思春期までの心と身体の見守る仕組み、特に、発達障害やこころの問題に対する**専門医による医療的ケア**(岡山医療センター小児科や岡山大学小児心身医療科などとの連携)を組み込んだ地域ぐるみの見守り体制の構築を目指す。その効果の評価指標の一つとして**不登校の予防効果**について検証する。
⇒本年9月より**思春期こころの学校健診**開始、従来の子育て支援に加えて子ども食堂や学童保育の充実を図る。

● 「心の豊かさの向上」を実現するまちづくり

- ・**孤独・孤立対策推進法**(令和6年4月施行)に基づいて、「孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会」、「相互に支え合い、**人と人の「つながり」が生まれる心豊かな社会**」の構築を目指す。
⇒中高年の引きこもりをはじめ「孤独・孤立の状態」にある人の実態調査と対策推進の体制を構築する。

● 「高齢者の健康寿命の延伸」を実現するまちづくり

- ・「フレイル高齢者が社会参加できるまち」「フレイル高齢者が安心して買い物に行けるまち」に向けて、**介護予防・日常生活支援総合事業を活用した地域づくり**(地域包括ケアの実現)を推進する。
⇒福祉×交通・移動支援、ショッピングによるリハビリ、地域ぐるみの食支援などを推進する。

福祉政策推進室 (2025年度新設)

全世代・全対象型地域包括ケア
+重層的支援体制整備事業



障害者に優しいまち新見を発信

⇒障害者とその家族、ならびに
支援者の移住・定住促進

健康の森
学園など
との協働



NiU新見駅西サテライトでの『健やかな子どもの発達』支援



2022年4月開設

子ども中心の多世代交流広場

ひだまりの家 (2-6歳)

月・火・水・金
10:00-12:00
13:30-15:00



モンテッソーリ教具による
感性と能力、生きる力の育成
(高月名誉教授)

なごみ:

幼児期から青年前期の子どもと保護者への専門的支援

- ・ こどもの発達とこころの相談・カウンセリング (2023年6月～)
岡山医療センター小児科医師 井上拓志先生、毎月第1木曜 10時～16時
- ・ 思春期のこどものこころの相談 (2025年5月～)
岡山大学小児心身医療科の医師、毎月1回
- ・ 思春期こころの学校検診 (2025年9月～)

医療的支援

- ・ 特別な支援ニーズを有する子どもとその保護者等への相談事業 (2022年6月～)
健康保育学科特別支援専門の教員と学生、原則週2～3回、16時～18時頃

- ・ 行きしぶり・不登校等 親の会『ほっこりホットルーム』 (2023年5月～) 月1回
- ・ 不登校・ひきこもり『にいみのすみっこプロジェクト』 (2024年9月～) 月1回

全世代型地域包括ケア研究センター

産学官民連携による中山間地域の生活課題の解決



研究センター 事務局

センター長
副センター長
客員研究員
主任研究員
RA

センター会議
センター全体の
進行管理
将来構想・戦略



蒲原 基道 元厚生労働事務次官(客員教授)
服部 真治 日本能率協会総合研究所主幹研究員(客員教授)
藻谷 浩介 日本総合研究所主席研究員(客員教授)
野村 陽子 元名寄市立大学学長、元医政局看護課長(客員教授)
高原 伸幸 元厚生労働省専門官(客員准教授)
小山 珠美 口から食べる幸せを守る会理事長(臨床特命教授) 他

各部門での新見モデルの構築

**ウェルネス・ライフ
部門**

口から食べる幸せを
守る(NiU-KTSM)
プロジェクト

**メンタルヘルス
部門**

引きこもり支援と
社会参加に関する
研究

**ソーシャル・インクル
ージョン部門**

日本語教育を通じた在
留外国人福祉に関する
研究

**コレクティブ・
インパクト部門**

共創の視点で福祉
人材の育成・確保に
関する研究

NPO法人口から食べる幸せを守る会 第13回全国大会
地域ぐるみの食支援
～世代を超えて口から食べる幸せを!～

2025年7月5日(土) 9:30~16:30ハイブリッド方式
会場:三木記念ホール(岡山県医師会館/岡山県岡山市北区駅元町19-2)

大 会 長: 小山 珠美(NPO法人口から食べる幸せを守る会 理事長)
副 大 会 長: 公文 裕巳(新見公立大学 学長)
特別講演: 江草 正彦(岡山大学スペシャルニーズ歯科センター長)

申し込み開始 2025年1月1日

共 催: 公立大学法人新見公立大学

緊急告知!
新見公立大学NiU
鳴滝塾XⅢ

全世代型地域包括
ケア研究センター主催

**福祉×交通・移動支援
を考えるシンポジウム**

2025/6/28 13:00-16:00
新見公立大学地域共生推進センター棟講堂
新見の福祉と交通・移動の未来
を考えるシンポジウムを開催します!

基調講演
「移動支援を地域包括ケアシステム
に位置付ける方法」 講師: 服部 真治

新見版MaaS推進に向けたプロジェクトの包括連携に関する協定式&シンポジウム

2025年6月28日

新見市、公立大学法人新見公立大学、特定非営利活動法人みんなの集落研究所、岡山トヨタ自動車株式会社と一般財団法人トヨタ・モビリティ基金は、新見市において、福祉×交通・移動支援の取組を推進するために、**新見版MaaS（福祉×交通・移動支援ハイブリッド人材育成・開発及び新見版Goトレの効果測定）**の実証実験を行い、効果を検証して取組が地域に定着するための戦略を立てる産学官民の代表によるプロジェクトチーム（**Niimi Mobility as a service Project: NiMP**）

を立ち上げます。
新見市内に住む人々の移動のしづらさに対する解決策を考案し、地域でのプラットフォーム形成や活力のある地域づくりを目指していきます。



新見市版MaaS協定式

新見公立大学NiU鳴滝塾XⅢ

参加無料

福祉×交通・移動支援 を考えるシンポジウム

産学官民協働で描く新見の福祉と交通・移動支援の未来

2025/6/28 (土) 13:00~16:00

オンライン
同時配信

開催場所：新見公立大学地域共生推進センター棟講堂

プログラム

基調講演

「移動支援を地域包括ケアシステムに位置付ける方法」

講師：服部 真治

【日本能率協会総合研究所 福祉・医療・労働政策研究部主幹
研究員、新見公立大学客員教授】



服部 真治氏

福祉×交通・移動支援を考えるシンポジウム

先進取組①「新しい福祉サービスGoトレについて」

登壇者：小柴 徳明 【（一社）SMARTふくしラボプロジェクトマネージャー】

先進取組②「豊岡福祉モビリティについて」

登壇者：秋山 一平 【株式会社アンズケア代表取締役】

先進取組③「みんなのモビリティプロジェクトから生まれた移住者と地元住民による支え合いの移動支援」

登壇者：須田 悦子、水柿 大地 【助け英田しちやろう会】

新見市での今後の取組「新見版MaaSについて」

登壇者：高杉 公人 【新見公立大学全世代型地域包括ケア研究センター長】

タイム テーブル

主なスケジュール
13:00 開会
13:10 基調講演
14:20 福祉×交通・移動支援を考えるシンポジウム
16:00 閉会

お問い合わせ

全世代型地域包括ケア研究センター
〒718-8585
岡山県新見市西方1263-2
TEL:0867-72-0634
MAIL:zensedai@niimi-u.ac.jp



事前
予約は
こちら！

主催：新見公立大学全世代型地域包括ケア研究センター／新見公立大学大学院健康科学研究科

共催：みんなの集落研究所 TOYOTA mobility FOUNDATION あなたと、わたしで。 OKAYAMA TOYOTA

NPO法人 口から食べる幸せを守る会 第13回全国大会



地域ぐるみの食支援

～世代を超えて口から食べる幸せを！～



2025年7月5日(土) 9:30～16:30ハイブリッド方式
会場: 三木記念ホール(岡山県医師会館/岡山県岡山市北区駅元町19-2)

大会長: 小山 珠美(NPO法人 口から食べる幸せを守る会 理事長)
副大会長: 公文 裕巳(新見公立大学 学長)
特別講演: 江草 正彦(岡山大学スペシャルニーズ歯科センター長)

詳細・お申込



NPO法人 口から食べる幸せを守る会 共催: 公立大学法人新見公立大学



申し込み開始
2025年1月1日

2025年7月5日
KTSM第13回全国大会・岡山
基調講演

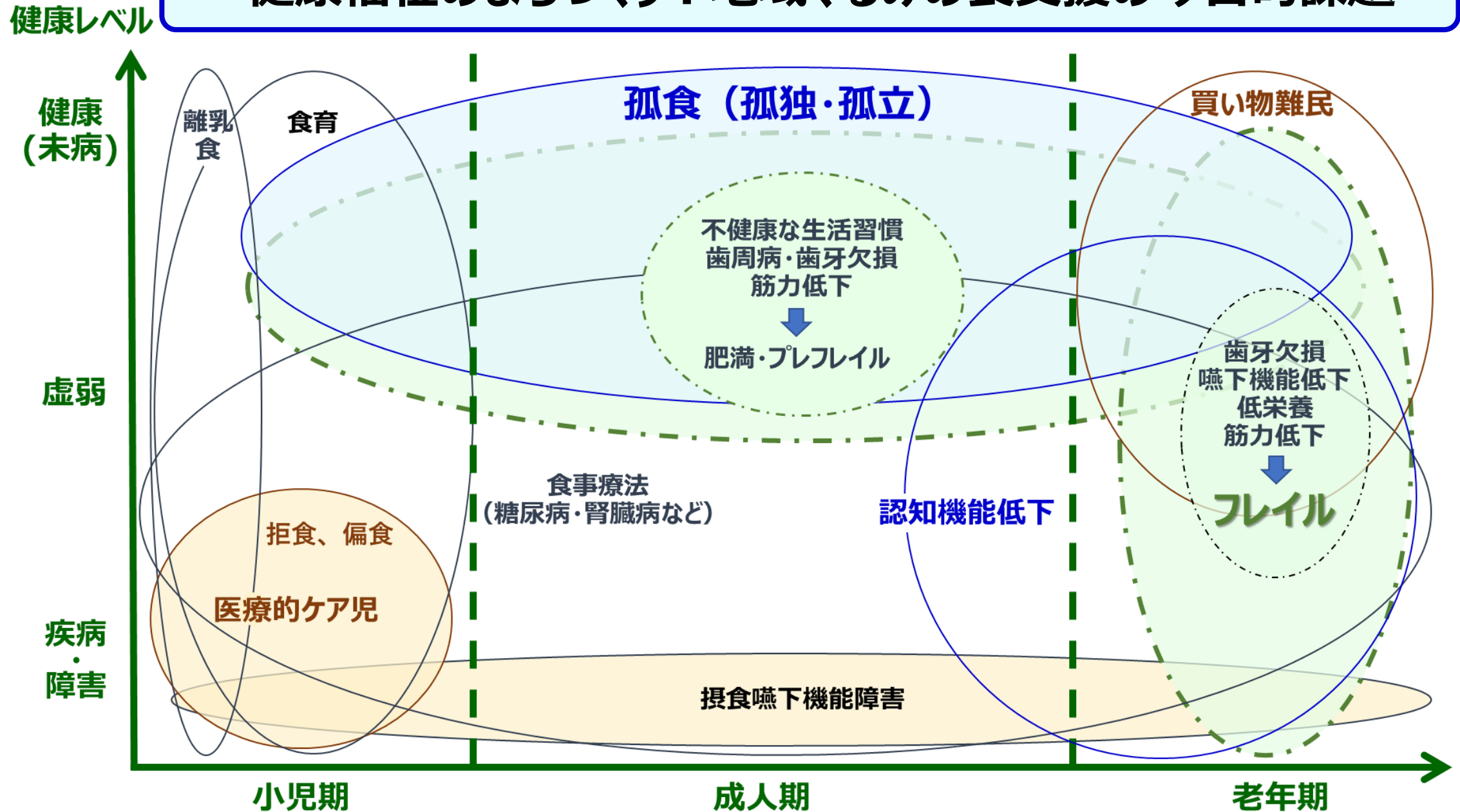


地域ぐるみの食支援 - その今日的意義 -

新見公立大学 学長
公文 裕巳



健康福祉のまちづくり：地域ぐるみの食支援の今日的課題



食べる幸せプロジェクト

全世代型地域ぐるみの食支援（新見モデル）の構築に向けて（案）

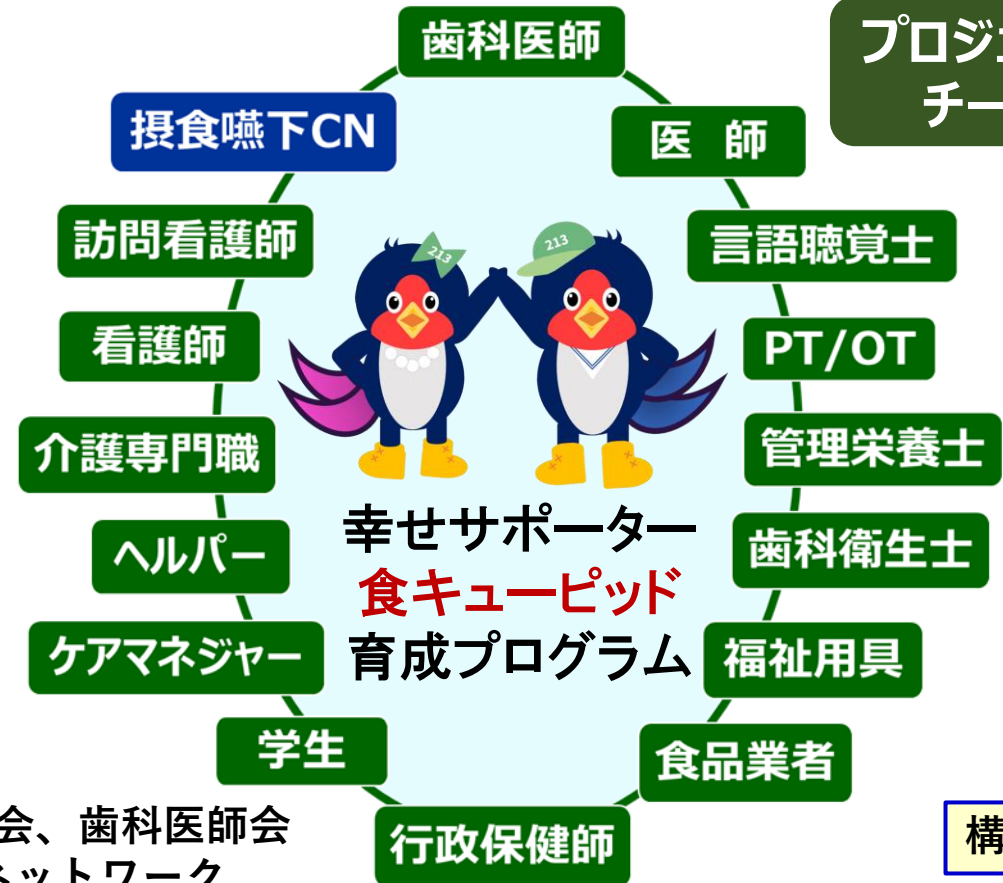
全世代型地域包括ケア研究センター
ウェルネスライフ部門

NiU-KTSM

- * 食事サポーターインストラクター
- * KTBCインストラクター
- * 実技認定士
- * 学生食事サポーター

認定看護師教育課程

- * 摂食嚥下認定看護師（CN）



新見市医師会、歯科医師会
地域医療ネットワーク、
関連団体協力

構想中

新見市地域共生推進本部

食べる幸せプロジェクト

新見モデルの構築に向けての先行事業：相談事業・啓蒙活動

相談窓口開設：全世代型地域包括ケア研究センター

実施中

地 域

在宅療養者・家族
一般住民

医療機関・施設

患者・利用者・家族
看護・介護専門職

歯科医師

摂食嚥下CN

医師

歯科衛生士

言語聴覚士

管理栄養士

訪問看護師

コア・メンバー会議
2025年4月7日～

新見公立大学
全世代型地域包括ケア研究センター
NiU-KTSM 地域ぐるみの食支援
食べる幸せプロジェクト

市民のみなさま向け

このたび、新見公立大学全世代型地域包括ケア研究センター NiU-KTSM地域ぐるみの食支援として「食べる幸せプロジェクト」を開始します。その取り組みの一つとして、口から食べることにに関するお困りごとの相談窓口を開設します。

新見市内で暮らす全ての世代の方を対象に、食の支援に関わる専門職チームが連携しながら、一人ひとりの状況に応じた支援を行います。

「うまく飲み込めない」など、食に関するお悩みがありましたら、お気軽にご相談ください。

こんなお困りごとはありませんか？



近頃、水分が飲み込みづらくて、よくむせるようになった。



認知症の母が、なかなかごはんを食べてくれなくて。

食の支援に関わる専門職チームが無料でご相談に応じます

電話かメールで
ご連絡

相談内容を
うかがいます

専門職チームで
話し合い

相談内容を
検討します

ご相談への回答

担当者より
お伝えします

食支援を基盤とする
地域包括ケア
新見モデルの構築

新見市

だれもが人生の最期まで
口から食べる幸せを守るための地域づくり

構想中

共食メイト*

18公民館単位
地域課題に
応じて
チームを編成

*居場所創りメンバー

課題の掘り起こし

新見市
社会福祉協議会

行政保健師

食生活改善委員
ヘルスメイト

食支援チーム

スワロウメイト



食キューピッド

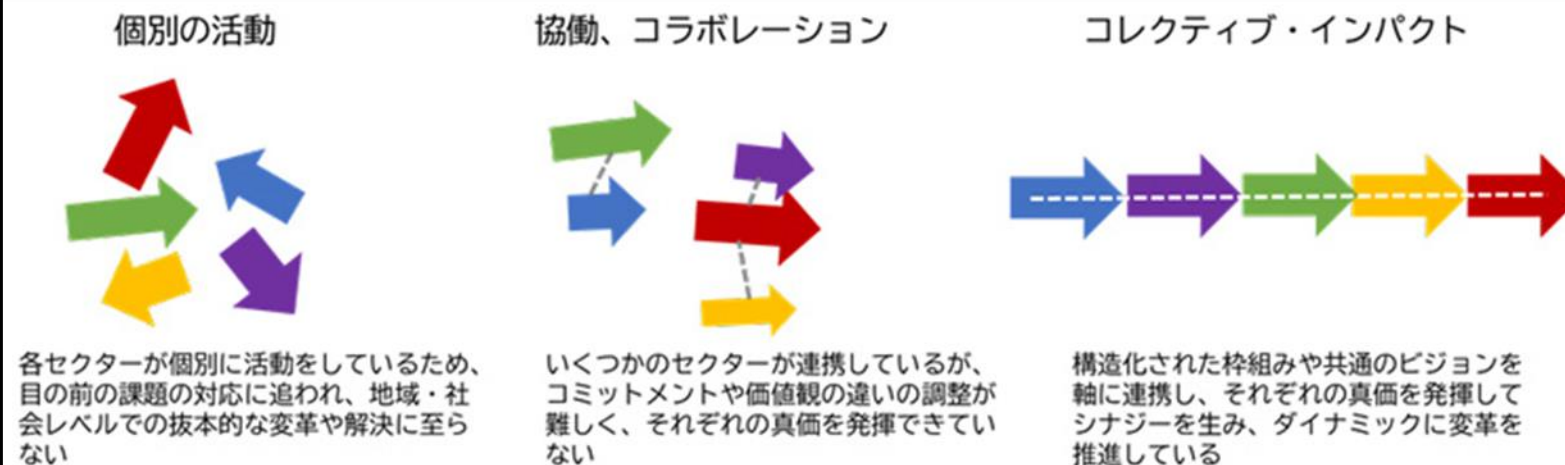
プロジェクト・コア

新見市地域共生社会推進本部における検討の進め方

地域共生社会の実現に向けて、多様な地域課題を効率的に解決していくためには、産学官民の各セクターが目的意識を共有し、シナジー効果を発揮して変革を推進することが肝要！

⇒ **実務者会議**を構成して、優先的に取り組む地域課題の選定の段階からスピード感を持って協議する。
また、課題の解決に向けて、コレクティブインパクトの考え方にに基づき、**推進本部**として、実践モデルの検証と成果の社会実装を進めていく。

コレクティブインパクト 2025年5月31日 服部先生 講演のスライドより



出典：北海道大学高等教育推進機構CoSTEPフェロー西尾直樹氏作成資料 (https://scienceportal.jst.go.jp/explore/opinion/20210415_e01/)